

竹田市中心市街地活性化基本計画の全体像

環境の変化

- ◆人口減少による居住地としての魅力の低下
- ◆公共施設等の地区外移転による中心市街地の利用機会の減少
- ◆顧客ニーズに対応できず、観光地としての集客減少につながる商業の衰退
- ◆都市計画道路の見直し・廃止を契機としたまちづくりへの機運の高まり

上位関連計画における位置付け

竹田市総合計画、竹田市新生ビジョン
竹田らしい個性的で魅力のある市街地整備を目指し、豊かな自然環境や歴史的背景との調和を図り景観に配慮しつつ各地域の市街地整備を推進

竹田市都市計画マスタープラン
中心市街地は、都市拠点地区に位置付けられ、多様な都市機能の集積及び商業地の賑わいづくりに向けた活性化施策を展開するとしている。

竹田市都市再生まちづくり基本計画
中心商業地における都市機能集積や商業の賑わい回復を主な役割とした実行計画

竹田市歴史的風致維持向上計画
①城下町の夏越祭にみる歴史的風致、②西宮神社の八朔祭にみる歴史的風致
③岡神社の善神王様祭にみる歴史的風致、④神明社の大祭にみる歴史的風致
⑤城下町の恵比寿講にみる歴史的風致、⑥日竹田荘と豊後南面の祖田能村竹田顕彰活動にみる歴史的風致の6つの歴史的な価値ある資源を活かす、中心市街地の再生に取組む計画

基本的な方針

基本的な方針① 城下町の風情を活かした歩いて楽しい観光拠点づくり

- ◆歴史や文化に育まれた城下町の特徴を活かし、風情と魅力づくりを住民や商業者、行政が一体となって城下町の風情を生かした観光拠点づくりを進める。
- ◆中心市街地までの交通案内や駐車場の配置などを戦略的に進め、観光客が中心市街地にアクセスしやすい交通環境を整える。
- ◆城下町の風情を残す中心商業地の交通体系の誘導、歩行者の安全確保に努め、安心して快適に散歩できる道路環境と賑わいづくりを進める。

基本的な方針② 快適な居住環境の整備と市民が日常的に利用できる中心市街地づくり

- ◆若年層世代に限らず、高齢夫婦や若者の単身者なども含め、幅広い世代が居住できる利便性の高い安全な居住空間を提供する。
- ◆様々な都市機能が集積する場所として、市民が日常的に利用できる親しみやすく身近な中心市街地づくりを進める。
- ◆中心市街地に商業・業務施設や公共施設を集積させ、中心市街地の利用機会の向上を進める。

中心市街地の活性化に向けた課題

- ①歴史的風致と街なみ景観の保全・活用
- ②城下町の風情ある街なみを歩いて楽しめる場所の形成
- ③都市基盤整備や都市機能の集約による利便性の高い居住環境の形成
- ④地域住民が交流できる施設の充実による地域コミュニティの維持・形成
- ⑤既存ストックの有効活用による街なかへの居住誘導の推進
- ⑥空き地や空き店舗の発生防止に向けた商業地としての活力と魅力の向上
- ⑦高齢者や障がい者をはじめとした誰もが利用しやすい市街地環境の形成

中心市街地活性化基本計画

(コンセプト)
**城下町の風情が五感に響く
”竹田情感まちづくり”**

(計画区域) 約 48.2ha
(計画期間) 平成 27 年 7 月～平成 32 年 3 月 (4 年 9 ヶ月)

市民等のニーズ調査の結果

- 【本中心市街地の魅力】**
・城下町としての風情や伝統文化・歴史資源と認識している市民が多く、観光地としての活性化施策を切望
- 【必要な取組】**
・空き店舗活用や個店の魅力向上が上位で、官民一体の体制づくりが2番
- 【中心市街地の利用目的】**
・買物や銀行・郵便局、病院等の日常生活に身近な利用が行われている。
- 【商店街の課題】**
・経営者の高齢化による後継者難が最も高く、空き店舗の増加、商圏人口の減少、魅力ある店舗の減少が続く。
- 出展) まちづくりに関する市民アンケート
魅力ある中心市街地活力創造事業化検討調査 等

旧竹田市中心市街地活性化基本計画の成果・反省点

- 【取組の成果】**
- ◆人口流失を防止し定住化を図り、新たなビジネスの展開誘導を促進
 - ◆道路整備、案内盤等整備、景観づくりなどにより少なからず市街地の利便性や生活環境の改善に寄与
- 【反省点】**
- ◆人口減少、市財政上の課題、ハード事業等の遅延などにより市街地整備改善があまり実施できていないこと
 - ◆TMO(タウンマネージメント機構)の育成が出来なかった結果、一体的な整備を行うに至らなかったこと

中心市街地再生の戦略

観光客を中心市街地に誘導するための戦略

観光客を中心市街地に誘導するために各方面の玄関口を設置し、中心市街地に誘導する手段や対策を戦略的に実施

まちなかを回遊させるための戦略

市民や観光客が街なかを散歩できるようなルート及び拠点を設け、街なかを回遊する対策を講じる

商店街のおもてなし戦略

商店街の今後の方向性として、にぎわい拠点の創出、古町における医商連携による商業の活性化、新たな文化発信

目標指標・目標値

目標① 観光地としての魅力の向上

目標指標	地区内年間観光客数
基準値 (H25 年)	188,066 人
目標値 (H31 年)	210,000 人
目標の達成に必要な主な事業	瀧廉太郎記念館改修、歴史資料館改修 コミュニティセンター(仮称)整備事業 商店街まちの駅整備事業 空き店舗活用チャレンジショップ事業

目標② まちなかの回遊性の向上

目標指標	地区内歩行者量
基準値 (H25 年)	3,219 人
目標値 (H31 年)	5,362 人
目標の達成に必要な主な事業	街なみ環境整備事業、伝統的建築物改修事業 商店街まちの駅整備事業 空き店舗活用チャレンジショップ事業 コミュニティセンター(仮称)整備事業 医商連携のまちづくり推進事業

目標③ まちなか居住の推進

目標指標	地区内居住人口
基準値 (H26 年)	1,269 人
目標値 (H31 年)	1,274 人
目標の達成に必要な主な事業	空家改修事業 空き店舗活用チャレンジショップ事業 定住促進ビジョン策定事業

参考目標 中心市街地内の空き店舗数の減少

目標指標	空き店舗数
基準値 (H26 年)	45 件
目標値 (H31 年)	35 件
目標の達成に必要な主な事業	空家改修事業 空き店舗活用チャレンジショップ事業 商店街まちの駅整備事業

